

仕事の信頼～信用の架け橋は挨拶・報連相とチェック

挨拶（礼儀）は人間関係を繋ぐコミュニケーションの架け橋なら、報連相は仕事を円滑に効率よく進める為の架け橋です。挨拶と報連相は社会で生きていくうえで欠かせない法則でありこの二つは仕事を行う上でどちらも大切に重要なものです。この二つを積み重ねる努力を続けると信頼が生まれてきます。この信頼とは経験とキャリアそして気付く力によって身に付くものとだと私は思います。そういう力がついてくるとその人はお客さまや会社の上司に仕事の依頼をされたり、任されたりすることが増えていきそれに応えると成長し評価が上がります。それを積み重ねると信用と言う財産になります。しかし、信用は油断をすると維持が難しくなり一瞬にして壊れることがあります。その壊れたものを立て直すのは積み重ねてきた以上に時間がかかります。よく、「人は信頼しても仕事は信用するな」と言います。極端に言えば、仕事はいろんな人の人生が係ってくるのでそのくらいの気持ちで取り組まなければならないのだと言うことです。そしてそれは立場や責任が大きくなるほどそういった気構えを持ち合わせていかなければなりません。会社では社長が一番それを考えていき、その次に上の立場（〇長とつく立場）の人が社長の考え、方針を理解してその気構えをくみ取り実践しないとイケません。しかし仕事を司るのは機械でも CP でもなく人です。人と仕事をする上で信頼関係を繋ぐ架け橋がチェックです。チェックをするには仕組みやルールが必要です。チェックの役割を伝えましょう。社長はマクロをチェックしてマクロに対策し、方針管理責任者は実施責任者とミクロにチェックしてミクロに対策を取る。実施者（部下）はチェックにより気付かなかったことを学習し気付く力を身に着ける。これが理想です。誰もが気持ちよく円滑に仕事をしたいと思っています。チェックはポジティブにとらえるとそういった意味の懸け橋になります。それを仕事の実践に繋げる学びが経営計画書勉強会です。そして経営計画書を道具として実践すること。その結果として会社が成長し皆さんと皆さんの家族が幸せになると信じます。経営計画書勉強会で共に学び実践しましょう。素直な心は学ぶための第一歩。

代表取締役社長 梶谷 康一